

宗
教
進
化
論

25
261

Ⓜ

013616-000-9

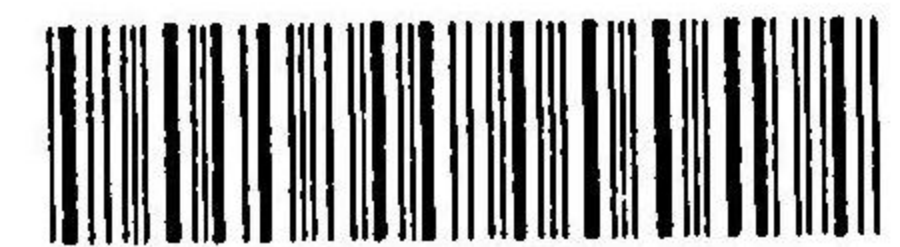
25-261

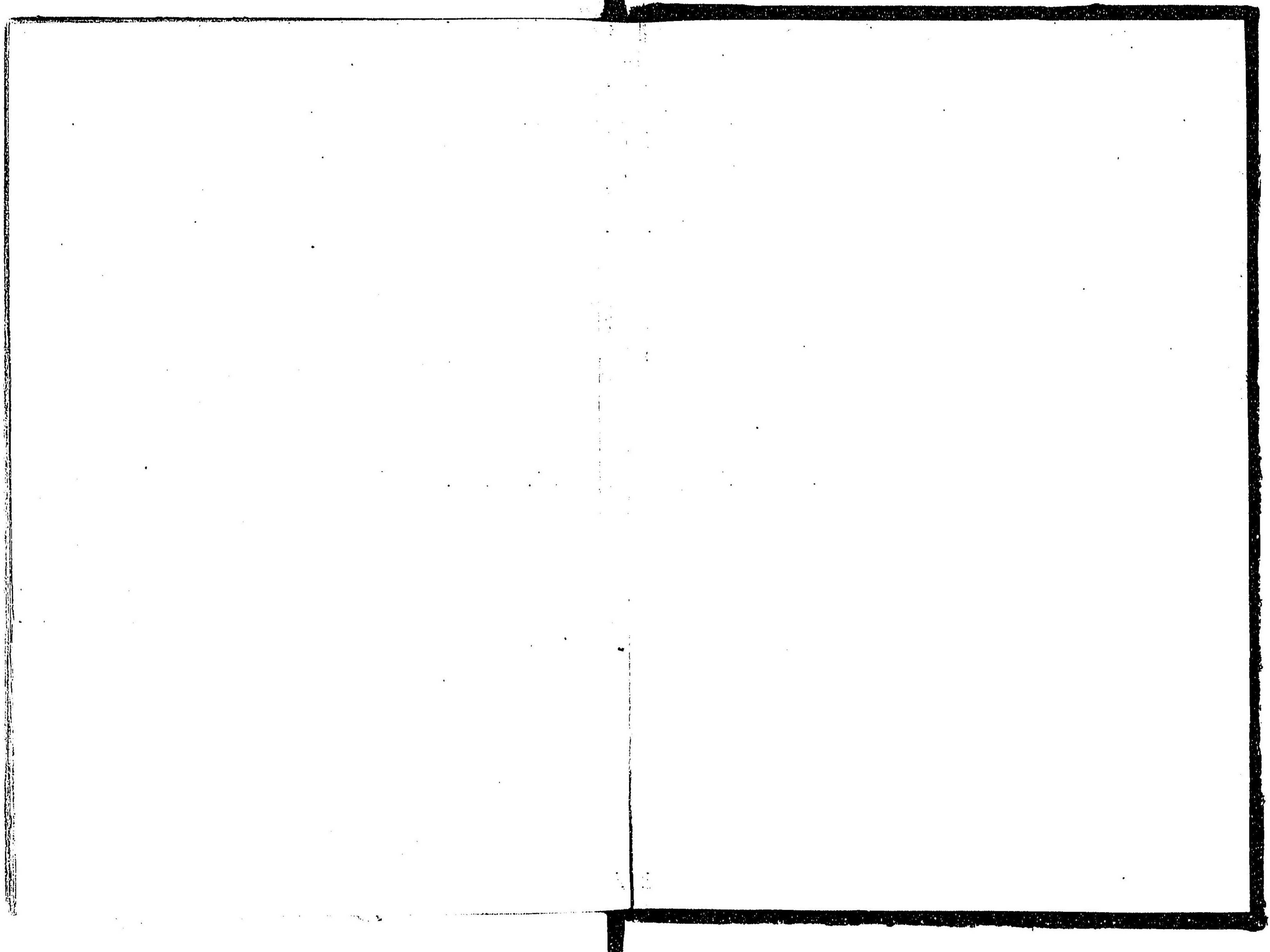
宗教進化論

斯迈撒 (スペンサー) / 著

M19

ABA-0085







Herbert Spencer

シ公行スルモノ一ナラザルヲ言フ。
 先生之ヲ聞キ。怡々其ノ著書ノ廣ク
 東洋ニ播スルヲ悦ビ。余ニ囑スルニ
 其ノ譯本ヲ送ラン。一ヲ以テス。乃チ
 歸朝スルニ及ヒ。悉ク其ノ著書ノ翻
 譯ニ係ル者ヲ購ヒ。諸ヲ先生ニ寄送
 ス。先生更ラニ大ニ喜ヒ。我ガ公使森
 氏ニ托シテ新著一卷ヲ余ニ投シ。添

ルニ手牘ヲ以テシ。深ク前日ノ事ヲ
 謝シ。且ツ曰ク茲書近日ノ所著幸ニ
 貴國ノ文字ニ譯セラレナバ則吾ノ
 榮タル也大矣ト。而シテ其ノ書ハ則
 宗教進化論ナリ。高橋達郎子見テ以
 爲ク。小子不敏ナリト雖モ願クハ此
 書ヲ譯スルノ勞ニ當ラン。稿成リ將
 ニ上梓セントシ。頻ニ右ノ顛末ヲ記

シテ辨髦ト爲サンヲ請フ。辭スルト雖モ聽カズ。遂ニ之ヲ書シテ以テ與フト云フ。

明治十九年五月盡日

板垣退助識

例言

一此書原名ヲ「レリジオウス、レトロスペクト、エ
ンド、プロスペクト」(Religious retrospect and prospect)ト曰
フ即チ「宗教ノ回顧及ヒ前途」ノ義ニシテ先ツ古
代ノ宗教ニ溯リテ今日ニ至ルマデノ沿革ヲ叙
シ尚ホ進ンデ將來ノ進化如何ヲ推論セル者ニ
シテ要スルニ宗教進化ノ理ヲ講スルニ外ナラ
ズ故ニ題シテ「宗教進化論」ト名ツケ「卷首ニ題ス
ルニ「既往ニ溯リテ將來ヲ説ク」ト義譯セシモノ
ナリ

一原本ハ校合摺ノ一小冊子ニシテ卷首ニ第何章ト記ス可キ章ノ文字ニ當ル「チャプター」ノ一語ヲ置キ又處々句切ノ首端ニ第何節トス可キ節ノ文字ニ當ル「セクション」ノ語ヲ置キ各下ニ餘白ヲ存シテ數目ヲ挿入スルガ如クナラシメ其体裁既ニ我邦ニ傳ハリテ吾人ノ間ニ貴重スル先生ノ社會學ノ原理「プリンシプルス、オフゾシヨロジ」ノ原書ト全ク同一ニ出デタルモノナルヲ先生自カラ墨汁ヲ以テ其ノ「チャプター」「セクション」等ノ文字ヲ筆抹シ且ツ傍ラ處々ヲ校正加刪シ

テ卷首ニ本篇首端ニ譯出セル如キ標示ノ一文ヲ加ヘ又卷尾ニ「ハーブर्ट、スペンサー」ノ姓名（即チ卷首肖像ノ下ニ附スル者ハ其ノ真寫ナリ）ヲ手署セルモノニ係ル因テ想フニ先生之レヲ社會學ノ原理第六篇宗制論ノ末章ト爲サンカ爲メ他ノ諸章ト共ニ一旦校合摺ニ付セシモノナルガ當時未タ其篇ヲ世ニ公ニセサルヲ以テ故ラニ其ノ一篇中ノ萃ヲ拔キ之レヲ我カ板垣君ニ贈リテ以テ本邦ニ譯刊セラレンコトヲ望ミシモノト知ラル、ナリ果シテ然ラハ本篇ノ

如キハ社會學ノ原理中ニ在テモ特ニ先生ノ精神ヲ注キシ者タルハ固ヨリ論ヲ俟タス之レヲ全篇ノ骨髓ト爲スモ決シテ過當ニ非サルヲ信スルナリ

一余板垣君ノ囑ヲ得謹ンテ之ヲ譯スト雖モ固ヨリ淺劣敢テ其ノ任ヲ全ウスト爲サス只專ラ直譯ヲ之レ勉メ以テ原著先生ノ述意ヲ誤マラサランコトヲ期スルノミ殊ニ原書ハ哲學上ヨリ之レヲ論述セル者ナレハ隨テ又哲學ノ套語ヲ用フル者少カラス讀者縉閥ノ際必ラス難澁

解シ易カラサルノ章句無キニ非ズ只願クハ小説裨史ノ觀ヲ爲スノ無ク再三玩味シテ迷意ノ存スル所ヲ詳ニセヨ是レ余ガ特ニ讀者ニ向テ冀望スル所ナリ

一書中譯字ハ概ネ世間慣用ノ者ヲ以テ之レヲ填ムト雖モ就中哲學套語ニ係ル者ノ如キハ必ラズ初出ノ譯字ニ原語ヲ傍記シ以テ世ノ參考ニ供ヘ且ツ新ニ譯字ヲ下ダス者ニハ必ラズ分註ヲ加ハフ又書中括弧内ニ限ル者ハ原著先生ノ註解ニシテ其ノ分註ヲ下ダス者ハ皆予カ註

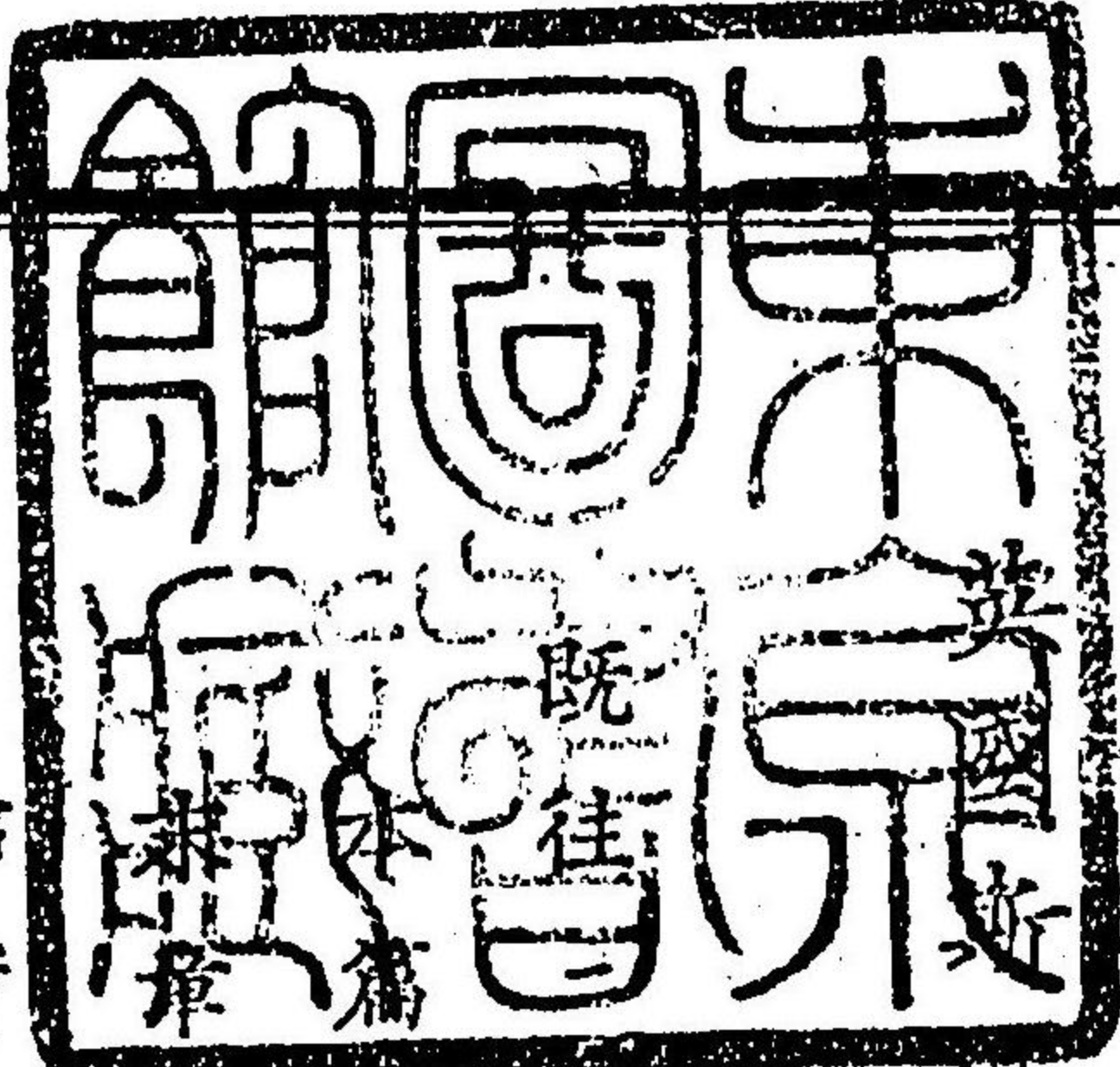
解ナリ

明治十九年六月

譯者誌

例六

宗教進化論



英國近遊撒先生著 高橋達郎 譯

溯リテ將來ヲ説ク

ハ畢竟社會學原理第六篇宗制論ノ

ト爲ス可キモノニシテ本篇首段ノ

事實ニ關スル者ハ總ベテ前諸章ノ所論

ニ基ツク然レモ其ノ事實ノ本據トスル

所ハ概ネ既刻ノ社會學原理第一篇中ニ

在リ就テ考フ可シ
 宗教ノ事ハ五官ノ知覺外ニ涉ルカ故ニ尋常一
 様ノ意ヲ以テ悟リ得ベキ所ニ非ス彼ノ獸類ノ
 悟ル所ハ特ニ耳目鼻口ニ感ズル事物ニ過ギス
 又無學ノ兒童聾啞ノ人及ヒ矇昧野蠻ノ民ノ如
 キモ亦然リ智力發達シ開明ニ進ムノ人ニ在テ
 ハ則チ然ラズ特ニ五官ニ感スル事物ニ止マラ
 ズ其聽ク可カラズ觸ル可カラズ視ル可カラザ
 ルモ尚ホ已レニ關係アリト思フモノニハ亦心
 ヲ用ヒザルハ無シ抑モ此五官ヲ以テハ知ル可

サメーナチユラール

カラザル理外ノ事ヲ想起セシメ又且ツ理外ノ
 思想ノ理内ノ思想ヨリ進化シ来ル所以ハ如何
 ト云フニ其由テ此ニ来ル所蓋シ突然ニアラズ
 故ニ宗教ノ起原ヲ明カニセントスレバ先ツ其
 由来ヲ説カサル可カラズ
 蓋シ^シ靈鬼^神ノ説ハ此等ノ由来ヲ最モ明ニスベシ
 人々ノ心意漸ク分化シ来テ^支分化シトハ一種三種
 トナリ益繁雜初メハ唯ニ視觸ス可キモノニ止
 マリタル思想モ竟ニ又視觸ス可カラサルモノ
 ニ及ボスニ至ル之ヲ考フルニ其此ニ至ルヤ甚

タ徐々ニシテ急ナラザルヲ徴スルニ足ルモノ
アリ彼ノ夢間ニ於テ現ハレタル靈ノ如キ人其
ノ夢間ノ言行ヲ以テ實ニ其靈ノ所爲ト信スル
事及ビ一旦死シタル者再ビ靈ト爲リテ歸リ来
ランコトヲ期スル時ノ如キ人之ヲ恰モ其ノ生
者タリシ時ト同シ形状アル複體ノ恰モ我が容姿
シタルが如ト思フ事ヲ以テ考フルトキハ乃チ
キ體ヲ謂フト靈鬼及ヒ神モ始ハ理内ノ作用者
理外ノ作用者ノ類ヲ謂フ神モ始ハ理内ノ作用者
人類ヲト異ナル所甚ダ少クシテ但ダ其ノ秘密
ニ徘徊スルト善事惡事ヲ爲スノカトニ於テ少

シク生者タリシ時ヨリ優ル所アルヲ知ルナリ
又死者ノ靈鬼モ生前ノ時ヲ知ル者復タ之ヲ夢
ミサルニ至ルトキハ其ノ靈モ亦滅セリト思フ
ヲ以テ考フルトキハ此等初期ニ属スル理外ノ
作用者ハ唯暫時ノ間存在セシニ過ギズ當初ニ
在テハ人未タ理外者ノ永存ヲ察スルニ至ラザ
リシヲ徴スルニ足ル
加之前條ヨリ高度ノ分化ニ達セザルモノ往々
コレアリ彼ノ靈鬼ノ總數ノ如キ一方ニ在テハ
人死シテ新ニ其數ヲ増セ且又一方ニ在テハ人

ノ追記息ミ夢ミルヲ無キヲ以テ其ノ數傍ヨリ
減シ到底其數増スベカラズ隨テ其ノ總數中ノ
靈鬼モ一トシテ永ク万世ニ通ジテ其威徳ヲ施
ス者ナキニ至ル看ヨ彼ノ「ア・ン・ク・ル・ン・ク・ル」ノ如
キハ「ズールス」人種ノ太古ノ神ニシテ其人種ノ
父祖ト稱セラレタルモノナルモ是レ亦終ニ全
ク死滅シタルモノト認メラレ現ニ冥福ヲ祈ル
ノ祭ヲ受クルハ唯ニ後代ノ靈鬼ノミ然レモ又
連綿トシテ香花ヲ墓前ニ絶タズ後人之レヲ追
敬シテ死者ノ言行ヲ慕ヒ又之レヲ子孫ニ傳フ

ルガ如キニ至ラバ竟ニ又永存靈鬼ノ念ヲ發シ
以テ理外者神ノ類ト理内者人ノ類トノ間ニ更ニ著シ
キ思想ノ差ヲ生スルニ至ル事既ニ此ニ至レバ
理外者ノ數ハ益々加ハリ隨テ此等ノ理外者到
ル處ニ遍存シテ萬般異常ノ事ヲ發起セシムル
モノトシ之レヲ尊信スルヲ益々強キヲ加フベ
シ
斯ノ如クナレバ必ズ靈鬼ノ威徳ニ各々等差ヲ
生ズル者ナリ其ノ等差ハ勢ノ自然ニ出デ、生
前ノ勢力如何ニ基ツクヲ常トス是ヨリシテ常

八
人ノ靈鬼ハ僅ニ子孫ノ祭祀ヲ受ケ聖賢英傑ノ
靈鬼ハ子孫ニ非ザル者モ尚ホ之レヲ祭リテ往
々己レノ利益ヲ求ルニ至ル是即チ理外者ノ等
級夙ニ往昔ニ胚胎セシ所以ノ者ニシテ其ノ等
級竟ニ著明ト爲リテ攪ス可カラザルニ至ル
此等初期ノ分化ヲ導ク其原極メテ少カラズ
ト雖モ就中其ノ最タルモノハ戰國ノ世ニ若ク
モノ無シ其ノ戰鬪久ヲ經レバ其ノ分化益々進
ムニ至ル然ル所以ヲ論センニ戰國ノ世ハ小國
ヲ亡シテ大國ニ併セ更ニ其國ヲ以テ他ノ一大

國ニ合スレバ必ラズヤ之レト共ニ生者ノ威力
ニ夥多ノ等級ヲ生スルガ故ニ隨テ又其ノ靈鬼
ノ威力モ其ノ種類極メテ多キニ至ル斯ノ如ク
ニシテ久シク歲月ヲ經ルニ隨ヒ偉大ノ靈鬼ハ
之ヲ崇メテ神トシ第二流ノ靈鬼ハ之ヲ卑ミテ
半神ト爲ス等ノ感覺ヲ成ス然レモ尚ホ合祭廟
ノ諸神ノ如クニシテ未ダ其等級ノ懸隔セザル
ヲ猶ホ昔者羅馬人ノ尋常ノ靈鬼ヲ稱シテ「マネ
スゴット」魂神ト呼ヒ希伯人ノ「イロイム」
上ニ同ジ意義略ボ
ト稱シタルヲ見テ知ルガゴトシ蓋シ此等幽冥

間ノ生活ニ於テモ尚ホ日々ノ需要ト職業ト交
際ノ法度トニ於テハ全ク現世ノ生活ヲ再演ス
ルモノト爲スガ故ニ此等ノ理外者中ニ在テハ
尙ニ其ノ等級ノ種々ニ相分ル、ノミナラズ其
ノ性質動作モ亦均シク種々ニ分レザルハナシ
故ニ地方神及び諸神アリテ彼此ノ現象ヲ統轄
シ又善神惡神アルヲ致スナリ斯クノ如ク靈鬼
ニ基テ宗教ノ風各地同ジカラザルニ兵亂ノ爲
ニ其國各々併合シ終ニ數種ノ宗門雜合スルヨ
リ一ノ鬼神學ヲ成スノ進化ヲ促カスニ至ル

斯ク當初ニ在テハ勢ノ自然ニ出デ、靈鬼ハ事
皆生前ノ複体ヲ爲シ神(戰勝ヲ得タル人種中ノ
生者即チ英雄豪傑等ヲ謂フニ非サル時)ト稱ス
ルモ唯有勢者ノ複体ヲ爲スニ過ギズ是ヲ以テ
其ノ神タル固ヨリ形質情欲智力等一切此世ノ
人タルヲ免レザルト毫モ凡庸ノ靈鬼ニ異ナラ
ズ而シテ此等ノ神ハ皆其供膳ノ酒肉飯血等ヲ
啖ラフト亦猶ホ凡庸死者ノ複体ニ於ルガゴト
シ而シテ當初ハ現ニ之レヲ食ラフトシ後ニハ
更ニ神靈ノ奇特ヲ以テ唯其ノ精ヲ食ラフト爲

スノ異同アルノミ加之其ノ神タル管ニ視ル可
ク觸ル可キ人ノ情狀アルノミナラズ動モスレ
バ人ト争鬪シ又能ク疵傷痛苦ヲモ受クルモノ
トス但ダ其ノ異ナル所ハ不可思議ナル平癒力
ヲ存シテ不死ノモノト爲スニ在リ然レドモ其
不死ノ一事ニ至テハ尚ホ變例ナキニ非ズ何ト
ナレバ各種ノ人民中ニハ神タルモ尚一度ハ死
ス(是レ英武ノ人生キナガラ神ト稱セラルレバ
自ラ此事アリトノ事ヲ往々固守スルノミナラ
ズ現ニ稍ヤ開ケタル人民ノ中ニモ神ニ兩度ノ

死滅アリト想フ₁恰モ現存野蠻ノ民ノ靈鬼ニ
兩度ノ死滅アリトスルニ異ラサレバナリ蓋シ
人智彌々開明ニ赴クニ隨ヒ理外者ノ理内者ノ
狀ヲ離脱スルコト更ニ甚シク此ニ至レバ鬼神
脱形 即チ形體ヲ脱シテ全ク觸視スノ勢益
デマリアリセイシヨシ 可カラサル者ト爲ルヲ謂フ
ニ熾ニシテ之レヲ妨クルモノ無ク人々努メテ
理外ノ穩當ナル思想ニ達セントスルヨリ知ラ
ス識ラス神ニ觸ル可キノ説止ミ次テ又視ル可
ク聽ク可キノ説モ消滅シテ神ハ全ク觸ル可カ
ラス視ル可カラス又聽ク可カラサルモノト爲

ル斯クノ如クシテ神ノ形体漸ク人様ヲ離レテ
神様ニ移ルニ隨ヒ神ノ心情モ亦後レナガラ神
様ニ移リ進ムモノトス夫レ野蠻國ノ神ハ其ノ
智力概ネ凡人ノ智力ニ優ル所無ク容易ニ人ニ
欺カレ又半開國ノ神ト雖モ均シク人ニ欺カレ
又自カラ過失ヲ爲スノミナラス往々事ニ就テ
自カラ後悔スルトアリ而シテ彼ノ觀サル所無
ク識ラサル所無シト思フニ至ルハ一二歲月ノ
久シキニ在ルノミ然レトモ人智一タヒ變スル
トキハ神ノ心情亦變シ元トハ甚タ粗暴ナル情

欲有リテ信徒ヲシテ敬テ之ニ服事セシメシ神
モ歲月ヲ經ルニ隨ヒ其情欲漸ク衰へ有形ノ快
樂ヲ得ントスルカ如キハ概ネ跡ヲ收メ其他ノ
情欲モ大ニ人様ヲ脱スルニ至ル
蓋シテ神ニ歸シタル性質ハ常ニ人世ノ情態ニ相
應シテ遷ルモノニシテ戰國武斷ノ世ニ在テハ
人皆神ニ仕ヘス不遵不從ヲ以テ何ヨリ大罪ヲ
犯カセルモノトシ其ノ怒ルヤ解ク可カラス其
ノ罰スルヤ假サ、ルモノトスルヲ常トシ更ニ
神意ノ慈愛ノ如キハ人之レヲ言フ者稀ナリ然

ルニ武斷ノ風俗漸ク衰へ苛虐專擅ノ政漸ク面
 目ヲ改メ人々自主獨立ヲ尚ヒ自由ノ政体ニ遷
 ルニ及テハ宗教ノ風モ亦一變シ益々治平ノ道
 ニ適ヘル心情ヲ以テ專ラ神ノ性ニ歸スルニ至
 ル所謂神慈神愛神怒ト稱スルカ如キハ即チ此
 ニ至テ興ル
 上文人智ノ進歩世態ノ變遷ヨリ來ル所ノ効果
 ヲ説クニ專ラ無形上ヨリセシガ今又更ニ之ヲ
 明ニセンニハ須ク有形上ヨリ見ザルベカラズ
 埃及ノ宗教ヲ見ルニ今時ノ事ハ姑ラク置キ古

來ノ傳説及ビ記録碑銘等ヲ熟考スルトキハ人
 獸諸神ヲ祭ル矇昧ノ思想ヨリ終ニ一タビ一神
 ヲ敬スル宗教ニ進化シタルヲ見ル可シ然ルニ
 其今日ニ至テ再ビ諸神ヲ拜スル者ハ何ゾ是レ
 後世ノ僧侶古ヲ尚ビテ今ヲ非トスルノ心(是レ
 古今ノ神學者鬼神學者ノ理論ニ徴ス可シ)ヨリ
 一タビ進化シタル思想ヲ棄テ、之ヲ目シテ却
 テ異端邪説ト爲シタルニ因ルノミ又吾人ニ在
 テ空想ヲ棄テ且ツ「イリアド」詩篇昔者希臘ノ詩
 聖ト稱セラレ
 タルホーマー即チ詩家ノ所ガ太古ノトレ謂イリウム府ノ没落ノ事ニ就キ作りシ所ノ記
 謂イリウム府ノ没落ノ事ニ就キ作りシ所ノ記

事蹟ヲ窺フニシテ全篇二十四卷太古希臘ノ
 史上ニ關スル如何ヲ問ハス單ニ之ヲ以テ上古
 希臘ニ行ハレタル「ズース」神ノ意想ヲ示スモノ
 トシ之レヲプラトーノ問答篇中ニ記載セル後
 ノ意想ニ比較スルトキハ希臘ノ開明ニ赴クニ
 從ヒ其神ニ歸シタル下劣ノ人様性漸ク衰へ高
 尚ナル人様性稍々變シテ大ニ（純然タル神人同
形ノ念ヲ改メタルヲ見ルヘシ之レト同ク古傳
ニ於テ容貌嗜欲情緒ノ共ニ人様ヲ帶ビタル希
伯來ノ神是レ耶蘇宗ノヲ以テ後ノ預言者ノ世

ニ説キ示セル希伯來ノ神ト比較スルトキハ亦
 大ニ人様ヲ離レタル性情アルノミナラズ之ニ
 伴隨シテ其ノ威力ノ及フ所極メテ廣大ナルヲ
 見ル降テ今日其神ヲ見ル所ヲ以テスルトキハ
 吾人亦極メテ其ノ面目ヲ改メタルヲ認ムルモ
 ノアリ昔時ニ在テハ人皆其ノ神ヲ以テ人心ヲ
 執拗ニシ罪業ヲ犯カスモ覺エサラシメ又往々
 虚誕ヲ以テ人ヲ欺クモノトセシモ今ハ全ク其
 ノ説亡ビテ却テ無量ノ美德ヲ具フルモノト信
 ゼラル、ニ至レリ

斯ノ如ク古人ノ意中一モ宗教ノ念無ク又宗教ノ感覺モ無キヲ見レバ世ノ進化ト之レニ伴隨シタル智力ノ進化ヲ經テ始メテ宗教ノ念ト感覺トノ起リシヲ知ル可ク且ツ其ノ念ト感覺トハ明ニ追跡スベキ原因ヲ經テ現ニ開明諸國ニ今日ノ形狀ヲ成セルヲ知ル可シ然ラバ則チ宗教ノ念ト感覺トハ將來如何ナル進化ヲ爲スベキ今之ヲ推測センニ一方ヨリ之レヲ考フルニ宗教ヲシテ現今ノ狀態ニ至ラシメタル變遷ニシテ俄然此ニ中止ス可シトスル

ハ愚論ト爲スヘシ又一方ヨリ考フルニ既ニ記載シタル如ク自然ニ起リシ宗教ニシテ俄然消失シテ徒ラニ其ノ空殼ヲ存ス可シトスルモ亦愚論ト爲ス可シ左レバ宗教ノ事ハ必ス幾多ノ變遷無カル可カラズ其ノ變遷幾許ナルモ消失スルカ如キハ萬々アル可カラズ然レバ則チ將來期ス可キ變遷ハ果シテ如何ゾヤ試ニ上文ノ沿革事實ヲ以テ之レヲ其ノ最低度ト立ツルトキハ吾人ノ之レニ答ンテ亦難カラズ

哲學原理(「フルストプリンシプルス」) 書第九十

六節ニ説示セル如ク凡ソ物ノ變遷ハ常ニ事物
セクシヨシノ完全ナル方ト不完全ナル方トニ相背馳スル
ヨリ生スル分化上ノ結果タルガ故ニ進化ハ常
ニ前途ノ發達ヲ通シテ終始融チソリウシヨシ化ノ爲メニ制セ
ラレ又竟ニハ全ク廢止セララル、ニ至ルモノト
ス左レバ古來教法ノ興廢ヲ鑒ミ現存教法ノ將
來ヲ明カニセント欲セバ必ラス先ツ其ノ真理
ニ就テ講明スル所無カル可カラス抑モ諸神半
神魂神其他種々ノ鬼神ヲ創起セシムル初期ノ
變遷中ニ際シテハ進化ハ殆ンド妨無クシテ進

ニ此ニ一科學ヲ成セル鬼神學ハ之レヲ合成ス
ル理外者ノ増數スルト同時ニ各部ノ整式ヨリ
諸神ノ屬性ニ至ルマデ共ニ益々判然タル体裁
ヲ得ルニ至ル然リト雖モ到底又之レガ對敵タ
ル融チ化ノ爲メニ優勢ヲ占メラル、ハ勢ノ免レ
サル所ニシテ自然因理ノ説益々明カナルニ隨
ヒ鬼神學ノ進化ト競争シ知ラス識ラス諸神ノ
信仰中世ノ開知進識ニ相反スルモノ自ラ衰フ
此ニ至テ鬼神及ヒ造化ノ各部ヲ主宰スル第二
流ノ諸神ノ行フ所ハ畢竟常理ニ過キサルヲ以

テ世人益々其奇ナラサルヲ知リ終ニ大ニ其ノ
導信ヲ失フニ至ル斯ノ如クニシテ鬼神學ヲ合
成スル此等劣小ノ諸神ハ漸ク融化シ去テ之レ
ト同時ニ其諸神ノ一体中ニ魁タル一大神ノ威
力益々無上ノモノト爲リ隨テ從前數多ノ神ニ
分配セル行爲ヲ以テ一二之レニ歸シ始メテ威
力完全タル一神ヲ現出ス次デ又全能普在神ノ
念ヲ發生シ来ルニ隨ヒ一方ニ於テハ之レニ歸
シタル人様ノ性漸ク衰凋シ又一方ニ於テハ融
化ノ爲メニ漸ク其ノ最上神ニ歸シタル体形及

ヒ性質ヲ變シ其ノ神ノ品位ヲ動カスニ至ル
既ニ論述シタル如ク此ノ變遷ハ已ニ開明進歩
ノ國中其ノ國上流諸士ノ中ニ在テハ一切劣小
ナル神既ニ滅シテ一ノ優大ナル神興ルノ進度
ニ至リ嘗テフイスク氏デアンソノロホモルワイケーレロシガ脱神人同形ト曰ヘル如
ク稍ヤ粗俗ナル人様ノ性ヲ脱スルニ至レリ今
將來ノ事情ヲシテ從前ト同シ進路ヲ追フモノ
タラシメバ吾人ハ此ノ人様性ノ衰凋スベキ勢
ハ蓋シ依然トシテ變セサルヲ知ルナリ左レバ
今ヨリ後如何ナル變遷ヲ期スベキ乎請フ吾人

ヲシテ聊カ説明スル所アラシメヨ
 蓋シ此等ノ變遷ヲ生ゼシムルニハ必ラズ先ツ
 二要素ノ結合無カル可カラズ其ノ二要素ト稱
 スル者ハ他ニアラズ一ハ則チ卑劣ナル心情ヲ
 神ニ歸スルヲ許ササルガ如キ高尚ナル心情ノ
 發達ニ在リ一ハ則チ從前ノ如ク未熟ノ解釋ヲ
 容レザル如キ智力ノ發達ニ在リ今此ノ二要素
 ノ効果ヲ明ニセンニハ固ヨリ淺近ナル事實ヲ
 以テセザル可カラズト雖モ此等ノ事實ヲ又稍
 ヤ深與ナル事實ト共ニ達觀スルハ亦甚ダ必要

ノ事ト爲ス可シ

抑モ「フイジャン」人種ノ信スル神ハ其性殘虐ニシテ
 死者ノ靈魂ヲ吞滅スト世ニ言ヒ傳フル所ノ者
 ニシテ其ノ吞噬ノ時ニ在リテハ必ラズ非常ノ
 慘毒ヲ蒙ラシム可シト想像セラレタル者ナル
 ガ是レ亦人ヲ永遠無究ノ酷刑ニ處スルノ神是
 人ヲ地獄ニ陥落セシムルノ神ヲ謂フモノニシ
 テ彼ノ耶穌教ニ於テ奉スル神ノ如キ其一ニ
 ノ居ルモニ比スレバ其ノ殘虐ノ度更ニ小ナルノ
 ミナラズ此等ノ事往々種々ノ說法中ニ引カレ
 又圖画ヲ以テ示ス一モ少カラズ云ハ、宗教式

ノ常觀トスル所ナルモ斯ル殘虐ノ行ヲ以テ神
 德ニ歸スルハ殆ンド善者ヲシテ堪ヘザラシム
 現ニ神學者中ニ在テハ或ハ陽ニ之レヲ指擿ス
 ルモノアリ或ハ陰ニ教條中ヨリ之レヲ除クモ
 ノアルニ至レリ蓋シ此ノ變遷ノ勢ヤ彼ノ地獄
 極樂ノ說全ク消滅スルニ至ルマテハ決シテ息
 ム能ハザルコト明白ナリ而シテ地獄極樂ノ說
 ハ世ノ不公不正ヲ嫌忌スルノ念日ニ成長スル
 ニ隨ヒ益々之レガ消滅ヲ促カサズンバアラサ
 ル可シ彼ノ數百世ヲ通ジテアダムノ子孫ヲ罰

スルニ其ノ祖先ノ犯シタル小過即チ人類ノ祖
 ンノ苑圃ニ於テ善惡ノ業ヲ爲メニ慘毒ノ苛
 食セシト云フ原罪ヲ暗指スノ爲メニ慘毒ノ苛
 刑ヲ以テシ又曾テ赦免ヲ得ルノ道アルヲ知ル
 者少ク隨テ其ノ赦免ノ利ヲ享クルヲ得ザル衆
 庶ヲ以テ徒ラニ之レヲ地獄ニ墮サシメ又無辜
 無罪ノ人耶即チヲ犠牲ニ供シテ始メテ人類ト調
 和ヲ行フガ如キ按スルニ彼ノ食セシ類ノ祖先
 數百世ノ間子孫タル者神ノ震怒ニ依テ皆身ヲ獄
 ニ墮チシガ耶蘇一タル出テ衆庶ニ代テリ身ヲ獄
 以テ犠牲ト爲シ十架ニ磔セラレテ原罪ヲ
 ヲ贖ヒシヨリ爲シ神ノ愛ノ得ル所謂洗禮ヲ
 受ク即チ死シテ蘇ヲ稱シテ救世主ト爲スト云フ
 トアリ即チ耶蘇ヲ稱シテ救世主ト爲スト云フ

此ニ基ツクモノニシテ是レ其ノ最モ首トスル
 所ノ教義ニ係ル者ナリ以上本文ハ則チ暗ニ之
 レヲ指スモノ苟モ之レヲ人君タル者ノ行爲ニ
 ト知ル可シシメバ決シテ世ノ嫌忌憎惡ノ
 出ヅルモノタラシメバ決シテ世ノ嫌忌憎惡ノ
 舉動ヲ招クヲ免レザル可シ然ルニ此等ノ行爲
 ヲ以テ萬物ノ究^{アルチメイト}竟^ト原因タル神ノ行爲ニ歸セン
 トスルコト今日ト雖モ尚ホ甚ダ難キヲ知ル况
 ンヤ將來ニ於テオヤ左レバ又無限ノ空間ヲ通
 ジテ無數ノ世界ニ出現シ地球ノ上代數百萬年
 ノ久シキ一モ之レガ住民ニ崇敬ヲ要セズシテ
 經過シ来リシ一大全能ノ真神ニシテ今俄カニ

名譽ノ心ニ制セラレ自カラ人類ヲ創造シナガ
 ラ其ノ人類恒ニ己レノ大徳ヲ稱セザレバトテ
 忍チ之レヲ震怒ス可シト云フガ如キ説モ亦全
 ク滅亡セザルヲ得ズ要スルニ斯ク敬神ノ本旨
 ニ背戻シタル説ハ人々益々之ヲ信ゼザルニ至
 ル可シ
 蓋シ人智ノ進ムニ隨ヒ世人ノ眼力中論理ニ適
 ハヌ者ハ益々明瞭ト爲リ前ニモ述ベタル如ク
 自カラ後悔シ又ハ震怒スル神ハ先見ノ力ニ乏
 シク又方便ニ欠ク所アルヲ免レズトスルガ如

キ淺近ノ非難ヲ通過スルトキハ又斯ノ如ク後
 悔震怒ヲ爲スノ情緒ハ他ノ情緒ト同ジク唯甚
 々狹隘ノ意中ニノミ存スト云フ更ニ深奥ナル
 非難ニ遭遇スルニ至ル夫レ情緒ハ必ラズ之レ
 ニ先ダツ思想アリ其ノ先ダツ思想ハ神ニ於テ
 モ亦コレアリトシ神ト雖モ彼此ノ事物ヲ視聽
 シ爲メニ大ニ其情緒ヲ動カサル、モノト説ケ
 リ要スルニ神ニシテ此等ノ事有リトスルハ尚
 ホ神人同形説ヲ懷クモノトスベシ是レ其ノ神
 ノ情緒ハ啻ニ人ノ情緒ト相同ジキノミナラズ

常ニ事々物々ニ就テ起ルコト猶ホ人ノ情緒ニ
 異ナラザレバナリ加之神ノ意識ヲ以テ斯ノ如
 キモノトスルハ彼ノ百世不易全知識ノ勢力ヲ
 之レニ歸スルト兩立セザルヲ奈何セン蓋シ斯
 ノ如キ意識ハ外物ノ刺衝ニ由テ引起セル思想
 及ビ感情ヨリ起ルモノニシテ決シテ宇宙間ノ
 事物ヲ一時ニ包ネ念フコトヲ得ザレバナリ故
 ニ神ノ意識如何ヲ知ラント欲セバ先ツ意識ノ
 字義ヲ論ズ可カラス言語上ノ義解ヲ用フ可カ
 ラズ今強イテ吾人ノ思考ニ移スニ妨アル義解

ヲ用フルモ益々人ヲ服セシムルコト能ハザル
 可キナリ之レト同ジク神ノ意志ヲ論ゼンニモ
 亦困難有リ今意志ノ文字ニ一定ノ義ヲ附セザ
 ルノ間ハ意志ハ萬物ノ原因^{コウス、オフ、オール、シンクス}之レヲ有スト言フ
 ヲ得ベキ^一尚ホ讚美ノ愛ハ一國ノ人民之ヲ有
 スト言フヲ得ルニ異ナラズ然レモ若シ其ノ言
 語上ニ止マラズシテ更ニ言語ノ本ナル思考ニ
 移ルトキハ甲義ノ名辭モ乙義ノ名辭モ決シテ
 之レニ當ル可カラザルヲ知ルナリ元來人ノ直
 ニ知ル所ノ意志ハ唯其ノ自己ノ意志ニ外ナラ

ザルガ故ニ苟モ己レノ意志ヨリ他ノ意志ヲ觀
 察スルニ當テハ必ラズ己ノ意志ヲ表スル名辭
 ヲ以テセサル可カラズ諸ノ他ノ意志ノ如キハ
 唯之レガ引証ニ供スルノミ然ルニ各人ノ感覺
 スル所ヲ以テセバ意思ニハ豫メ先ヅ一ノ發念
 即チ事ヲ爲サントスルノ志望アルモノニシテ
 全ク無意無感ニシテハ意志ヲ懷クニ由ナシ加
 之意志ハ既ニ何事ヲカ爲サントスルノ志望ア
 ルガ故ニ隨テ又之ヲ遂ケントシテ思慮スル目
 的ヲモ併セ存セズンバアラズ故ニ其ノ目的ヲ

達スレバ其ノ意志直チニ息ミテ他ノ意志代ハ
 リテ更ニ起ル者ナリ之レヲ詳言スレバ意志モ
 亦情緒ニ於ルガ如ク必ラズ事々物々ニ由テ起
 ルモノトス左レバ人ノ意志ヨリ推シテ神ノ意
 志ニ及ホストキハ亦必ラズ人ノ意志ノ如ク空
 間ト時間トニ自カラ限ル所アリテ甲ノ目的ニ
 關スル意志既ニ意識中ニ存スル間ハ乙ノ目的
 ニ關スル意志ヲ全ク除斥シテ容ル可カラサル
 ガ故ニ決シテ彼ノ同時ニ無限無數ノ目的ヲ舉
 行スル大通普遍ナル神ノ活動ト兩立ス可カラ

サルモノトス其他智ニ就テモ亦然リ今人ノ心
 識スベキ智ハ豫メ他ニ之レト獨立シ之レト客
 位ニ立ツ事物ノ存スルモノトス抑モ智トハ原
 ト外部ノ活動ヨリ始メテ起ル意識内ノ變更ニ
 シテ之ヲ詳言スレバ意識外ノ事物ヨリ起ル印
 象インプレッション及ヒ斯ル印象ヨリ采ル所ノ思想ヲ表スルノ
 名辭ナリ左レバ諸般ノ斯クノ如キ外部ノ活動
 ナクシテ智ノ猶リ存スルヲ説クハ寧口譚語ヲ
 用フルモノト謂フ可シ然ルニ初因イニシヤウス神即チハ智有
 リト知ラレタル者ナレバ此ノ順序ニ準ルトキ

ハ斷エズ獨立シタル外部ノ活動ニ感動セラレ
 ヲノ理ナリ是ヲ以テ識者或ハ異論ヲ狹ンテ曰
 ハン此等ハ天地創造ニ由テ始メテ斯ノ如キモ
 ノト爲レリ創造前ニハ皆是レ初因中ニ包含セ
 リト然ル時ハ吾人亦之レニ對ヘテ曰ハントス
 然ラバ創造前ニハ今日吾人が智ト稱スル者ヲ
 組成スル所以ノ變更ヲ其ノ初因中ニ發生セシ
 ム可キモノヲ存セザリシナラン果シテ然ラバ
 最モ智ヲ要スルノ時期ニ當テ全ク無智ナリシ
 ト謂ハサルヲ得ズト然ラバ則チ神ニ歸シタル

智ハ決シテ吾人が今日智ト知ル所ノ者ニ均シ
 カラサルヲ明白ニシテ所謂智ト稱スル者ヲ組
 成スル資質既ニ消滅シタル以上ノ智タルニ外
 ナラズ

此等深奥ニ渉ルノ非難自餘尚ホ少カラズシテ
 就中往々論議スルアルモ未ダ嘗テ料理シ得ザ
 ルモノ尠シトセズ左レバ此等ノ非難ハ凝然一
 團ヲ爲シテ到底人ヲシテ初因ニ歸シタル神人
 同形ノ性質中更ニ高尚ニ渉ル者ヲモ棄絶セシ
 ムルニ至ル可キハ猶ホ從來既ニ其ノ下劣ナル

者ヲ棄絶セシメタルガゴトクナラザルヲ得ザ
 ル可シ蓋シ初ヨリシテ既ニ伸張ノ勢有ル概念
 未ダ思想ヲ發セサル前コンセンション先ツ
 心裏ニ起ル所ノ想像ヲ謂フタル仮令其ノ意識
 ハ尚ホ永々意識タルニ止マル可キモ其ノ限界
 全ク消滅シテ詳ニ思慮シ難キ意識ト爲ルニ至
 ル迄ハ尚ホ益々伸張シテ息ム時無カル可シ
 識者或ハ曰ハン然リト雖其不可知者即チノ
 結局フアイナヒ意識コンセンション發達ノ極ニ達シテ詳ニ
 裏ニ眞實ニ出ヅルモノトシテ定説セリ然ルニ
 其ノ全ク虚妄ニ出テタル概念ヨリ連綿變形シ

テ此ニ達シ得ベシト爲スハ何ゾヤ蠻族ノ靈鬼
 説固ヨリ無根ナリ其ノ信スル所ノ死者ノ複体
 モ亦決シテ有ルモノニ非ズ然ルニ此ノ複体ノ
 漸次脱形シテ理外総作用者ノ概念ヲ發生シ且
 ツ其種人様属性ノ衰凋ト他ノ属性ノ變容トニ
 由テ形成セル神ノ概念モ亦連綿斯ノ如クニテ
 成ルモノトセンニハ其ノ方法ヲ極度ニ推進シ
 テ得タル純粹發達ノ概念タル亦乃チ虚妄ノモ
 ノタルニ非ズヤ初發曖昧ノ信用ニシテ全ク虚
 妄ニ出テタラン歟是ヨリ發生シタル諸般ノ信

用モ亦全ク虚妄ノモノタラザルヲ得ザルハ蓋シ免レザル所ナルベシト
 此論甚グ痛撃タルニ似タリ其ノ前提果シテ有効ノモノタランニハ誠ニ痛撃ト爲ス可シ然ルニ讀者多クハ意外ノ思ヲ爲ス可キ如ク吾人が之レニ答フルノ解ハ既ニ初期ヨリシテ眞實ノ萌芽ヲ初發ノ概念中ニ包含シタリトノ一言ニ在リ蓋シ眞實ノ萌芽トハ他ニアラズ意識内ニ發表スル勢力ト意識外ニ發表スル勢力トハ唯其ノ形状ヲ異ニシタルニ過キザル是ナリ請フ

左ニ從來ノ發達順序ヲ舉ゲテ之レヲ辯ゼン」
 抑モ各種有意ノ所爲ハ曖昧人ヲシテ勢力本源ノ已レニ在ルノ証據ヲ認知セシムルモノトス蓋シ此等ノ人ハ敢テ其ノ内部ノ經驗ニ思考ヲ回ラス所アルニ非ズト雖此等ノ經驗中冥々裏ニ此ノ意想ヲ存スルコトナリ今、手足ニ運動ヲ起シ手足ヨリシテ他物ニ運動ヲ起サシムル時ハ必ラズ之レニ伴隨シタル努力ノ感ヲ爲スヲ常トス此ノ努力ノ感覺ハ其ノ直接ニ生ゼシメタル變化ノ前因ヲ爲スモノニシテ隨テ又其

ノ未ダ生ゼシメザル變化ノ想像上ノ前因トモ
 爲ルガ故ニ竟ニハ此等外物ニ於ル變化ノ始ヲ
 表明ス可キ一個ノ名辭即チカト云フ名ヲ之レ
 ニ發セシムルニ至ル當初此ノ筋力ノ体外非常
 ノ事業ニ先ダツコトノ思想ハ同時ニ又之レト
 聯合シタル伴生思想ノ一全体ヲ齎ラシ而シテ
 此等ノ人ニ在テハ其想像スル所ノ努力ヲ以テ
 其ノ已レト全ク同様ナル複体ニ於テモ亦均シ
 ク之レヲ行フモノト思ヘリ然ルニ當初二在テ
 幾ンド諸種ノ最モ淺近ナル變化ノ舉行者トシ

テ想像セル此等ノ複体モ歲月ヲ經ルニ隨テ自
 カラ其ノ概念ニ變形スル所アリ就中或ル複体
 ハ其ノ有形体タルノ度更ニ減少スルノミナラ
 ズ數種ノ現象ヲ主宰スル所ノ更ニ偉大ナル品
 格ニ發達シテ其ノ秩序モ亦稍ヤ規律ヲ生ジ斯
 ノ如クニシテ漸ク人ヨリハ迥カニ有勢ニ且ツ
 行爲ノ法式ニ於テモ稍ヤ不易ノ狀ヲ呈スルモ
 ノト爲ル是ニ於テ乎其ノ行フ所ノ力ニ關スル
 思想ハ既ニ稍ヤ人ノ靈鬼ノ思想ト聯合ス可カ
 ラザルニ至ル既ニシテ尚ホ一層ノ進歩ヲ得テ

劣小ノ鬼神漸ク消滅シテ一ノ大鬼神ヲ此ニ現
 出シ其ノ品格廣大普遍ニ涉リテ更ニ不定ノモ
 ノト爲ルトキハ益々以テ其ノ外部ノカヲ吾人
 ノ意識中ニ存スル内部ノカト分離スルノ勢ト
 爲ル此ノ分離ノ勢ハ彼ノカノ名辭ヲ以テ當ニ
 感觸ス可キ物体ノ有形ナル變更ヲ示スノミナ
 ラズ總ベテ空氣中ノ震動ニ至ルマデ各般ノ變
 化ヲ併セ解説スル所ノ理學者ノ思想中ニ在テ
 最モ其ノ極度ニ達スルモノトス然ルニ此等ノ
 學者ニ在テモ之レニ關セズ尚ホ此ノ外部ノカ

(實物ノ抵抗ヲ呈スル靜學上ノカ静ト勢カト
イナリシテ識別スル動學上ノカ動トニ關セズ)ヲ考察

スルニ常ニ專ラ其ノ筋カトノ自ラ識ル所ノ内
 部ノ勢カヲ表スルノ名辭ヲ以テセリ蓋シ外部
 ノカモ別ニ其他ニ之ヲ表スルノ字無キヲ以テ
 己ムヲ得ズ之ヲ表スルニ内部ノカヲ表スルノ
 名辭ヲ以テスルモノナリ
 請フ今此ニ含蓄スル所ヲ見ヨ矇昧人ノ經驗中
 ニ在テ常ニ其ノ行ヘル所ノ變化ノ直接前因タ
 リシ内部ノ勢カハ何物ツヤ其矇昧ノ人ニ在テ

外部ノ變化ヲ説クニ已レノ力ニ關係アル人生一己ノ屬性ニ從テ考ル所ノ勢力ハ亦何物ゾヤ均ク是レ今日吾人が外部ノ諸現象ノ原因トノ想像スル同シ勢力タルニ非ズヤ然リ而シテ既ニ今日ニ至ルマデニ達シタル進度ヲ云ハバ乃チ意識外ニ存スル力ハ吾人ノ意識内ニ存スル者トシテ知ル所ノカト固ヨリ相同ジキヲ得ズト雖モ其ノ相互ニ發生セシムルヲ得ルヲ以テスルトキハ同物ニシテ唯其ノ方法ヲ異ニスルモノタラズンバアラズト云フノ直理ヲ認識スルニ

在リ左レバ此ノ曖昧人ニ胚胎セル空想ノ結局ヲ推ストキハ到底實物世界トシテ識別シタル宇宙間ニ發スル勢力ハ吾人ノ心裏ニ於テ意識ノ形狀ヲ以テ湧出スル勢力ト同一物タリトノ斷定ニ歸スルナリ然ラバ則チ前論ヲ以テ全ク虛妄ニ出デタル信用ヨリ眞實ノ信用ノ進化シ来ルヲ言フモノナリトノ駁論ハ決シテ事實ニ徴ス可カラズ之レニ反シテ宗教思想ノ究竟ハ當初許多ノ誤謬ニ蔽ハレ五里霧中ニ眞實ノ萌芽ヲ包含シタル思

想發達ノ極致タルニ外ナラズ所以一五節ニ説ク
 シテ教ノ本源タル變族ノ靈鬼ハ固ヨリ無根ニ
 ノニ非ズ然リト爲スハ此ニ初期ヨリシテ眞實ノ
 萌芽アリシト爲スハ彼ノ矇昧人民ガ己レ眞實ノ
 識内ニ認メタル勢カヲ死者ノ靈鬼ニモ及ボ
 靈鬼モ諸種ノ淺近ナル變化ヲ舉行スル者トセ
 シ一事ニ在リ爾後其ノ靈鬼ノ意想ヨリ漸次ノ
 發達進進化ヲ經テ終ニ神ノ意想ヲ起シ隨テ其ノ
 勢力モ次第ニ増進シテ初メ其ノ靈鬼ニ歸シタ
 ル勢カ即チ人ノ意識内ニ存スル勢カト殆シド
 天淵ノ差ヲ爲スニ至ル是ニ於テ乎理學者等ノ
 思想中ニ在テハ殊ニ人ノ勢力ト神ノ勢力トノ
 分離スルコト最モ極度ニ達セルモ退イテ人ノ
 勢力ト神ノ勢力トノ最モ極度ニ達セルトモ退イテ人ノ

物ニ非ズ兩者孰レモ外諸現象ノ原因ヲ爲ス
 ノミナラズ其ノ互ニ發生セシムル關係ヲモ有
 シテ到底同一物タリト虚妄ノ信用ニ歸スルモ
 レバ靈鬼複體ノ全ク虚妄ノ信用ニ出デタルニ
 關セズ獨リ初期ヨリシテ眞實ノ萌芽ヲ諸般ノ
 テハ既ニ初メヨリシテ眞實ノ萌芽ヲ諸般ノ
 妄中ニ存セシナリ左レバ眞實ノ基テ發達進
 采ル所ノ信用ハ亦固ヨリ眞實ノ信用ヲ進
 バアラズ今宗教上ノ思想ヲ其結局如何ヲ推
 キハ乃チ此ノ眞實ノ萌芽ヲ包含シタル思想發
 達ノ極ニ達シテ是ヨリ前六節ノ終ニ云ヘル如
 ク詳ニ思慮ス可カラザル思想ト爲ルニ至ルマ
 デハ益々進デ息ム時無カル可シトノ大意ナリ
 以テ上種々ノ引例等アリテ讀者或ハ其ノ大意ヲ
 括了スルヲ誤ルノ虞無シト今ヤ宗教ノ信用及
 セズ因テ聊カ爰ニ註釋ス

ビ情操ハ日ニ理學ノ爲ニ消滅セラレントスル
サイエンス
 ヲ思慮スルモノアリ此等ノ輩ハ未ダ神秘ノ事
 ノ舊解ヨリ取り去ルモ亦新解ニ附加スト云フ
 ノ事實ヲ知ラザルニ似タリ吾人ヲ以テ之レヲ
 言ハシメバ寧口舊解ヨリ新解ニ移ルノ際ニハ
 却テ神秘ノ事益々増加スト言ハントス何トナ
 レバ新舊相改マルノ際ニ當テハ常ニ解シ得ベ
 キ外觀ヲ有スル解説ハ之レヲ廢棄シテ却テ之
 レニ代フルニ吾人ヲシテ僅カニ某時限ノ既往
 ニ溯ラシメ此ニ顯然解ス可カラザルモノヲ目

前ニ放棄スルガ如キ解説ヲ以テスルモノタレ
 バナリ
 且ツヤ理學ノ進歩ハ一端ヨリ觀レバ漸次造化
 ヲ變容スルニ在テ尋常單純ト見ユル者モ頗ル
 繁雜ヲ表ハシ全ク静止シタリト見ユル者モ劇
 シキ活動ヲ現ハシ又空虚ト見ユル者モ却テ非
 常ノ動力作用アルガゴトキ其例甚々乏シカ
 ラズ而シテ歴代物理學者ニ在テハ近年ニ至ル
 マテハ該博ノ物理學者モ尚ホ信ス可カラズト
 思ヘル程ノ勢カヲ所謂粗質物中ニ發見スルガ
ブローニク

如キコト比々トシテ少カラズ例ヘバーノ純然
 タル鐵板ニシテ喋々タル説話ノ声音ヨリ起ル
 空氣中ノ錯雜震搖ヲ感ジ之レヲ雜多ノ電氣脉
 ニ移シ再ビ他ノ鐵板ヨリ千里ノ外ニ傳ヘテ分
 明ニ其説話ヲ聽取セシムルヲ得ルガ如キ是ナ
 リ今万物探求者即チ物ニ在テ斯ク身外ノ固形
 体靜寂ナル外觀ヲ呈シナガラ合計ノ極小ナル
 カニ感動スルヲ見又望遠鏡ヲ以テハ地球上ノ
 微分子恒星中ノ微分子ト相調和シテ飛躍スル
 ヲ見又空間ノ各点ガ諸方ヨリ之レヲ經過スル

無限ノ震搖ヲ受ケテ共ニ震搖スルヲ察スルト
 キハ勢ヒ宇宙ヲ以テ死物トセンヨリ寧口活物
 トスルニ赴カンコト期シテ俟ツ可シ其ノ活物
 ト稱スルモノ仮令一定ノ限挾ナル意義ニ於テ
 然ルニ非ザルモ一般梗概ノ意義ニ於テハ皆然
 ラサルハ無シ
 上文物理學者ノ研究ヲ以テ斷エズ増加スル變
 容ノ外ニ形而上學ノ研究ヨリ成績スル他ノ變
 容アリテ大ニ之レヲ助クルヲアリ今内部ノ心
 意作用ヲ分解スレバ吾人ニ在テ外部ノ事物ノ

表呈スル現象ヲ理學上ヨリ解釋スルニ常ニ專
 ラ吾人ノ心裏ニ於テ種々結合ノ感覺及ヒ思想
 ヲ表スルノ名辭ヲ以テス之レヲ詳言スレバ吾
 人ノ意識内ニ屬スル所ノ元素ヲ以テ之レヲ表
 明スト雖モ是レ唯意識外事物ノ表号タルニ過
 ギザルヲ認容セザル可カラズ又其ノ分解ニ據
 レバ吾人初發ノ信用幾分ヲ復曰シテ各群現象
 ノ表顯シタル後ニハ常ニ必ラズ一ノ連絡ヲ此
 ニ存シテ其ノ連絡ハ則チ無常ノ外觀中ニ定着
 存留スル所ノ實體レリリル實體トハ實相ト印レリリ度ノ相似レリリ學

ニ涅槃真如ノ妙體ガ万法ニ具足セルヲ實相ト
 稱シ諸法ハ實相真如ノ體ナレドモ煩惱ノ雲ニ
 覆ハレテ無常ノ者ハ現ハセリト説ケリ乃チ此
 ニ實體ト稱スル者ハ万物ノ無常ノ體即チ現象
 ヲ直ニ指スノナリ非ズ中ニ包含シタル真如ノ
 ヲ指スモ其ノナリ本文ハ彼ノ意識内ノ勢力ト
 識外ノ勢力ト相互ニ固ト互ニ生セシムル現象
 レドモ其ノ相互ニ發生セシムル現象上ヲ異ニ
 此ニ實體ノ連絡ヲ存スト云フ意ナルコトヲ吾
 ヲ暗ニ含メタルモノト知ル可シナルコトヲ吾
 人ニ示スニ至ルト雖ドモ此ノ實體ノ連絡ハ後
 タ永久吾人ノ意識ニ達ス可カラザルコトヲ知
 ルニ足ルモノアリ今又吾人ニ在テ意識ヲ組成
 スル活動ノ常ニ嚴密ニ限ラル、所アリテ苟モ

其ノ限外ニ在ルノ活動タル仮令其ノ限内ノ活動ト互ニ發生セシムル關係アルガ爲メ其本体ノ性質ニ於テハ共ニ同一ナル者ト爲ス可キモ斯ノ如ク限外ニ在テ意識ヲ爲サヰル者ナルガ故ニ決シテ之レヲ其意識ヲ組成スル所ノ活動中ニ編入スル能ハザルヲ記臆スレバ吾人が常ニ外部ノ勢力ヲ考察スルニ内部ノ勢力ヲ表スルノ名辭ヲ以テセザル可カラザル斯ノ必至ニ居ルモノハ即チ其ノ外部勢力ノ何物タルヲ辨ヲモ下ダシ難キ必至畢竟唯物論ノ世界ト云ハノ場合ニ居ルヲ謂フマリアリスチンク

スピリチアリスチンク

ンヨリハ寧ロ唯神論ノ世界ト謂フ可キノ思アルナリ尚ホ一步ヲ進メテ之レヲ考フルトキハ此ノ究竟勢力ノ種々ニ發シタル現象中ニ認ムルノ概念ハ復々決シテ其勢力ノ質体ヲ吾人ニ示ス能ハザル者タルノ真理ヲ認識セザル可カラザルニ至ルナリ
斯ノ如ク分解學ノ誘導スル信用ヲ以テスルモ毫モ宗教ノ目的ト爲ルベキ事物ヲ毀滅スルニ非ズシテ單ニ之レヲ變容スルニ過ギス之レト同時ニ理學ハ又形而下ニ於テ宗教情操ノ範圍

ヲ擴ムルナリ從來知識ノ進歩ハ初期ヨリ之レ
 ニ伴隨シテ人ノ驚愕ノ才量ヲ增長セリ故ニ今
 日蠻族中ニモ開明ノ事物ヲ見テ毫モ驚カザル
 ハ最下等ノ人種ニ在リ此等人種ノ無意無感ナ
 ルハ常ニ漫遊者ノ驚嘆シテ措カザル所ナリ此
 等ノ人種ニ在テハ造化ノ最大現象ヲ見ルモ別
 ニ驚ク可キモノト爲サズ偶々之ヲ研究スル者
 アレバ目シテ以テ兒戲ニ類ストス此等昧昧ノ
 人類ト開明ノ人類トノ心況相反スル如キハ猶
 ホ開明人類中ニモ亦コレアリ例ヘバ牝雞卵ヲ

解ヘスガ如キモ尋常一般ノ事ヲ見ルニ止マラ
 ズシテ自餘ノ事ヲ深ク觀察スルハ決シテ農夫
 ニモアラズ又工商ニモアラズ其生活現象ノ分
 解法ヲ細ニ索リ顯微鏡ノ力ヲ藉テ僅ニ原質ノ
 極微中ニ單形ノ生活スル者アルヲ認ムルノ外
 何程細ニ視察スルモ現實ノ動力作用ハ全ク究
 ハム可カラザルノ時ニ當テ既ニ最大複雑ノ考
 案ニ達スルハ特ニ生物學者ニコレアリトス又
 山中ノ凹窪ノ如キ尋常遊覽ノ人若シクハ鹿ヲ
 逐テ山ニ登ルノ獵者ニ在テハ其ノ涉獵若シク

ハ風景ニ關スル思想ノ外別ニ何等ノ感ヲモ起
 スコト無シト雖氏地質學者ニ在テハ則チ然ラ
 ズ往々別ノ思想ヲ起スコト少カラズ其ノ坐ス
 ル所ノ氷閉時代ノ嚴石ノ人類開明ノ初メヨリ
 迥カニ以前ヨリシテ風雨霜雪ノ爲メニ僅カニ
 其ノ外面半寸ヲ損耗シタルヲ視是ヨリ推シテ
 其ノ全凹ヲ刻出セシ損耗脱剝ノ如何ニ遅々タ
 リシヲ想起シ其ノ曾テ知ラザル時代ト勢力ト
 ニ思想ヲ及ボスニ至ル然ルニ其ノ思想タルモ
 此等地質學者ノ目的ニ取テハ既ニ全ク不足ト

スル所ニシテ其ノ周圍ニ連ナル片麻石ノ屈曲
 シタル重層ヲ一見スルトキハ其ノ地球ノ外面
 ヨリ迥カニ低下ノ處ニ在テ半バ溶解シタル形
 狀ヲ以テ存セシ時ノ更ニ隔遠ナル時代ヲモ表
 スルモノアリ再ビ之ヲ見ルトキハ其ノ成分上
 古ノ海濱ニ在テ沙泥タリシ時ノ尚ホ更ニ隔遠
 ナル時代ヲモ示スモノアリ是ヲ以テ前思想ノ
 如キハ彼ノ學者ニ在テ益々之レヲ淺近ノモノ
 トシ藐視スルニ外ナラザルノミ又吾人ニ在リ
 テ宇宙ノ最モ該博ナル概念ヲ存シ若シクハ宇

宙ノ熟察上ヨリシテ最モ多數ノ驚愕ヲ存スル
 ヲ見ルハ決シテ彼ノ天ヲ以テ山ノ頂ニ在ルモ
 ノト想像シタル太古矇昧人ノ中ニ在ルニモ非
 ズ又初發ノ世界開闢論ヲ承襲シテ天、彰、上、帝、之、
 榮、トノ事ヲ唱フル現世諸人中ニモ在ルニ非ズ
 寧ロ彼ノ大陽ノ一大團塊タルヲ視其一斑点ノ
 中ト雖モ我が地球ノ如キハ周邊毫モ觸ル所無
 ク寛ニ之レヲ容ル可キヲ知り且ツ精巧ノ望遠
 鏡ヲ以テスレバ斯ノ如キ大陽ノ外ニ又夥シク
 大陽有リテ多クハ更ニ大ナルコトヲ知ル所ノ

星學者中ニゴレアリトス
 蓋シ將來ト雖氏益々高尚ナル能力ト益々深遠
 ナル視察トニ由リ宗教ノ情操ヲ低カラシメン
 ヨリハ却テ之レヲ高カラシム可キヲ猶ホ既往
 ニ於ルト異ナラザル可シ今時ノ如キハ博學多
 才ノ智者モ尚ホ未ダ一切ノ事物ヲ思慮中ニ表
 スル知識才量アル者アラズ理學者ト雖モ萬物
 ノ理ノ一二部ニ專ラナル者ハ其他ニ就テハ尚
 ホ之レヲ知ラザルヲ常トス又一步ヲ譲リテ假
 リニ其ノ理學者ヲ以テ此等ノ各部ニ相應セル

知識有ルモノトセンモ尚ホ其ノ諸部ノ現象一
 切ニ思慮ヲ及ボスニ足ラザルヲ奈何センヤ然
 リト雖モ將來ニ至ラバ更ニ談博普遍ノ智力ヲ
 生ジテ一切万物ノ現象ニ就テ無邊ノ意識ヲ構
 成スルニ至ラント必然ナリ而シテ彼ノ僅カニ
 單奏ノ音調ヲ味フニ堪フ可キ未熟ノ聽神力ニ
 テハ合奏ノ妙音ヲ聽取スル能ハズ從テ音樂ノ
 妙味ヲ知ラザルノ類ニ同ジク將來更ニ進化ノ
 智力ニ會ハゞ今時ノ理學者ニ超ユル數等ノ感
 情ヲ起サント猶ホ今時理學者ノ感情ノ草昧蠻

族ノ感情ヲ超ユル數等ナルガゴトク其各部別
 ヲニ理會ス可キ事モ共ニ綜合シテ理會シ得ル
 ニ至ル可シ
 抑モ此ノ理會力ヲ促ガスノ感情ハ知識ノ分解
 ニ由テモ決シテ減ズルトナク却テ増サントス
 ルヲ知ル知識ノ分解ハ理學者ヲシテ竟ニ不可
 思議論ニ陥ラザルヲ得ザラシムルモノト雖モ
 之レト同時ニ解明ス可カラザルヲ知ル所ノ大
 密。獨。ニ就テハ尚ホ斷エス幾分ノ解意ヲ想像セ
 シムルノ勢有ルモノトス蓋シ理學者ニ在テ終

始本末ノ意想ハ人類ノ思慮ニ屬スル相對意想
 ニシテ人類ノ思慮ヲ超過シタル究竟實体即チ
アレクサメイト・レ・リナーノ妙ニハ決シテ之レヲ適用ス可カラザルヲ記
 體シ又如何ナル解説モ此ノ究竟實体ニ適用シ
 テハ全ク無味ノ語ト爲ルベキヲ疑念シナガラ
 尚ホ一ノ解説ヲ此ニ存セザル可カラズト思考
 スルノ萬己ム可カラザルヲ感ズルノ時ニ於テ
 ハ益々其ノ解意ヲ此ニ想像セシムルニ至ラザ
 ルハナシ
 然ルニ此等ノ神秘ハ愈々思考ヲ累ヌルニ隨テ

益々神秘ト爲リ到底不可思議論ニ陷ラザル可
 カラザルニ坐スルガ中ニ此等理學者ニ在テ萬
 有事物ノ發達進化スル所以ノ無。限。無。究。ノ。勢。力。
インフイナイト。ユンドイターナーイナシー
 ヲ常ニ其ノ眼前ニ目撃スト云フ一ノ絕對理證
アブソリュート・セルテイネン
 ハ尚ホ依然トシテ此ニ存シテ息マザル可シ是
 レ即チ宗教ノ理學進步ノ爲メニ消滅セザル所
 以ナリ

宗教進化論終

明治十八年九月廿八日出版權免許
同 十九年六月 日出 版

定價金廿五錢

島根縣平民

翻譯人 高橋達郎

東京神田區小川町六
拾六番地寄留

高知縣士族

出版人 板垣退助

高知縣下土佐國高知
潮江新田村壹番地

新潟縣平民

發兌元 松田周平

東京日本橋區本銀町
三丁目十番地
原田金藏方寄留



4/29



大賣捌 同 本店

新潟縣下古志郡長岡

東京府士族

同 原亮三郎

日本橋區本町三丁目

賣 捌 所

大坂 原亮三郎支店 東京 文學社

東京 柳川梅次郎 同 野村善兵衛

同 山中孝之助 同 和田篤太郎

同 龜谷光 同 小野敬次郎

同 辻文藏 同 吉田金藏

